

目 次

はじめに

目次・凡例

I 瓦に込めた思い	1
II 県内瓦業の歴史と様子	4
III 瓦の製造工程	10
IV 鬼瓦の製造工程	32
V 1に土 2に焼き 3に製造	40
VI 瓦職人の生活	44
VII 瓦職人の交流	49
VIII 三州鬼板師	58
資料編	64
展示資料一覧	66
主な参考文献・協力者一覧	68

凡 例

1. この図録は平成10年10月4日(日)から11月23日(月)までを会期とする特別展「屋根瓦は変わった～信州の瓦屋と三州の渡り職人～」の展示図録である。
2. 図録に掲載する写真は必ずしも展示の順序とは一致しない。また図録に掲載した写真は展示資料の全てではない。
3. 掲載写真は当館職員の撮影によるものだが、一部は所蔵者及び協力者から提供を受けた。
4. 本図録の編集、執筆は当館学芸員の細井雄次郎が担当し、館員がこれを補助した。
5. 資料所蔵者、写真提供者の表記については敬称を省略した。
6. 図録に掲載した瓦製造道具は、豊科町 増沢達海氏および長野市 内藤安夫氏所蔵のものである。
7. 図録に掲載した瓦の製造工程は、長野市 内藤安夫氏および滝沢彦太郎氏によるものである。
8. 表紙写真「ダルマ窯による瓦焼きの風景」(提供 駒ヶ根市 坂井千秋)
中表紙写真「瓦製恵比須・大黒面」(長野市 小笠原多加夫蔵)
裏表紙写真「寒山拾得瓦」(須坂市 森山明治蔵)

はじめに

私たちの身近にあるがゆえに普段は気をつけて見ていないものは意外と多くあります。屋根の上に葺か^つれている瓦もそういったものの一つに数えられるでしょう。しかし瓦をよくよく見ると時代によってその種類や形が変わってきていることがわかります。そして、瓦製造に携わる人々の生活も変化してきました。特に昭和30年代からの高度経済成長期に瓦産業は大量生産の時代に入り、それを境に瓦産業は大きく変化しました。30年以前には、当時から瓦の先進地であり、一大産地であった三州の職人が県内に数多く渡ってきていました。このような職人は、各地の瓦産地を渡り歩き、それぞれの土地の製造技術を身に付けて自分の技術を高め、一方地元の瓦屋はこういった職人を介して他の瓦産地の情報や技術を得ていました。言わば瓦職人は技術や情報の伝達者であったといえます。信州の瓦業はこの三州の渡り職人の力に負うところが大きく、そのつながりは強固なものでした。

しかし昭和30年代からの生産形態の大きな変化はこういった瓦職人を不要とし、職人が形成してきたつながりは急速に失われていきました。三州と信州との関係もそれまでの職人を介したのではなく、三州の瓦を信州の瓦屋が仕入れて売るという関係に変化し、三州とのつながりも昭和30年以前に比べると薄くなってきたといえます。

この特別展では屋根瓦だけでなく、昭和30年代を境に変わっていく信州の瓦屋と、瓦製造に関わった職人のあり方の変化に焦点をあてることをテーマとしました。

最後にこの特別展の開催にあたり、多くの方々にご協力いただきましたことに深謝申し上げます。

平成10年10月4日

長野市立博物館長